

3 学期始業式



2014.1.8 (水)

おはようございます。

皆さん、いいお正月を過ごせたでしょうか？2014年が始まって8日目、いよいよ学校もはじまりました。きのう7日には七草粥を食べた人も多かったと思います。春の七草を知っていますか？セリ、なずな、ごぎょう、ハコベラ、ほとけのぎ、スズナ、スズシロ春の七草は、どれも体にいいとされる草です。

無病息災を願って平安時代から続く風習だそうです。お正月にご馳走を沢山いただき、疲れた胃腸をやすめる意味でも、理にかなったことのように。

この他にも年末からお正月にかけては、それぞれの家や地域で様々な伝統が受け継がれています。それらを色々な方から教えていただくのに、冬休みはよい機会だったのではないのでしょうか。昔から伝わるものは、意外に科学的で合理的であり、現代の暮らしにもそれらの考え方は役立つものが多いです。

さて、新しい年になって、新しい手帳や新しいノート、新しい日記帳を用意した人もいますね。手帳にまつわる3つのお話をしたいと思います。

「手帳にまつわる3つのお話」

年末に本屋さんに行ったときの事です。うず高く積まれた日記コーナーでお父さんと娘さんが日記帳を選んでいました。お父さんが3年日記というのを見つけてきました。「これにしたらどうや、おまえは4月から中学生だろ、中学校での自分の3年間を書いといたらええねん。」この4月から中学生になる娘さんはしばらく考えていましたが「そやなあ、これ買うわ」と言って、中学生への期待や夢がいっぱい詰まった顔をしてレジに行きました。

そういえば私も小学生や中学生のころ日記を書いていたなあと思いだしました。今読み返せばこんなバカなことを思っていたのかと笑ってしまいますが、それを書いたときは真剣でした。自分自身が、自分の胸の内を書いているのですから懐かしいし、その時よりはちょっと成長したかなとか、結局変わっていないなど自分を見つめ、わたし反抗期だったんだと妙に納得もし、相手に対して、それはだめだよなどと反省したり、新たな気持ちで読み返すことができます。

結局わたしの日記は長続きしませんでした。3年日記を買っていった娘さんには、最後まで書き続けてほしいなあと思いました。



二つ目、横尾忠則さんという有名なグラフィックデザイナーがいます。横尾さんの美術館に行った時、彼の手帳が展示してありました。衝撃を受けました。

手帳と言うより日記帳のように1日ほぼ1ページ、誰に会ってどんな話をし、何に感動して、どんなお店に行き、そこでどんなふう感じて、そういったことが、もちろん美術家ですから絵入りで、本当に微に入り事細かに書き込んであるのです。それが毎日何年もずっと続いているんですね。圧巻でした。これが彼の芸術の原動力だと思いました。

三つ目は、新聞で読んだのですが、ヒットする食品を次々と開発している女性の話でした。それらのヒット商品は、彼女が日々ひらめいたことや身の回りの人や事柄をよく観察して、感じたこと、わかったことを書き留めたノートから生み出されているという記事でした。びっしり書き込まれたノートはもう10冊目だそうです。

こんなに特別ではないにしても、皆さんには自分の気持ちや身の回りであったこと、ひらめいたことなど何でもいいからメモする、書く、習慣を身につけてほしいと思います。3学期のはじめにあたり、私が皆さんに伝えたいのは「書くことの薦め」です。

「書くことの薦め」

3年生に実施した全国学力、学習状況調査の豊中市の中学生、国語では「書く力」が弱いという分析結果が発表されていましたが、日常的に書く習慣をつけることで学力的な「書く力」ものばせるのだらうと思います。「書く」ことで振り返りができる。「書く」ことで自分の気持ちや出来事を整理することができる。「書く」ことで気持ちの瞬間をとらえ、さらにその経過を客観的にみることができる。ひらめいたことを忘れない。「書き留める」ことで人から聞いた知識を自分のものにできる。特に自分の考えや思いを書き留めることは、自分の歴史を残すことにもなりますね。

以前に比べて、私たちの生活の中で自分の字で書くことが極端に少なくなりましたが、新しい手帳やノートを手にした今がチャンスです。授業のノートももちろん面倒がらずに、意識して、書き留める習慣をつけましょう。

3年生にとっては中学生最後の学期、入試という山はありますが、平常心を忘れず、さわやかに締めくくってください。1、2年生にとっても忙しい3か月になると思いますが、クラスの友だち、学年の和がさらに深まる3学期になるよう、期待しています。

